



2025年度

第10回看護学科ホームカミングデー・令和7年度同窓会看護学科支部総会

卒業生のキャリア支援として、第10回看護学科ホームカミングデー、および同窓会看護学科支部総会を開催いたします。

今年度は第10回という節目の年になります。第10回看護学科ホームカミングデーでは、看護学科大講堂にて同窓生による懇談や、学生ホールでの立食形式の歓談を予定しております。同窓生でお声を掛けあい、ぜひ皆様でお集りください。久しぶりに直接お会いできることを楽しみにしております。多くの方のご参加をお待ちしております。

2025年11月30日①

開催場所: 看護学科大講堂、学生ホール(参加費無料)

プログラム

- 14:00～ 同窓会看護学科支部総会
- 14:30～ ホームカミングデー開会
学長挨拶 松藤 千弥 学長
「看護学科の現在と展望」 北 素子 学科長
- 14:45～ 懇談: 慈恵がいいとも! 司会: 坂木 孝輔 成人看護学助教
テーマ「慈恵から羽ばたいた私たちがこれからチャレンジしたいこと」
ゲスト 井藤 千英さん(13期生) 附属病院5N小児看護CNS・臨床助教
小川 夏渚子さん(25期生) 本学大学院博士後期課程1年
大植 日葵さん(30期生) 虎の門病院
- 15:25～ 大学院紹介 大学院看護学専攻長 小谷野 康子教授
- 15:40～ 学生ホールにて立食、歓談
- 17:00 閉会

Homecoming Day Report

第9回看護学科ホームカミングデー・令和6年度同窓会看護学科支部総会開催

2024年11月30日(土)、第9回看護学科ホームカミングデーと令和6年度同窓会看護学科支部総会を、看護学科大講堂にて5年ぶりに対面で開催しました。当日は同窓生・教員あわせて65名が参加しました。支部総会では武石同窓会会長がドローンで撮影・編集された校舎の映像を「慈恵の歌」とともに披露し、懐かしさに包まれるひとときとなりました。ホームカミングデーでは、松藤学長のご挨拶に続き、北学科長が「看護学科の現在と展望」と題して講演。「慈恵の部屋」では森田梓さん(9期)、河辺壮太さん(23期)、興津未優さん(27期)が登壇し、学生時代の学びや出会いが今のキャリアにどうつながっているかを語り合いました。最後に柳澤裕之学長補佐の乾杯で懇親会が開かれ、和やかな交流の場となりました。





◇◇◇ 27期生 小池 結友 ◇◇◇

東京慈恵会医科大学附属柏病院

私は看護学科を卒業した後、慈恵柏病院の救命救急センターに配属されました。最初の頃は自分に何が出来るのかを考えて動くことに精一杯で、本当にあっという間に時間が過ぎていきました。学年が上がるにつれ受け持つ患者さんの重症度も上がり、自分の手技が患者さんの生死に関わる重圧に押し潰されそうになることも多々ありましたが、そんな壁を何とか乗り越え、4年目を迎えることができました。

救命救急センターで働いていると、世の中には様々な人が居るということを日々痛感します。突如心臓停止となり搬送される方やそのご家族、身体に限界を迎えながらも一人で過ごされている方。とても愛情深い

い家族も居ればそうでない家族も居ます。様々な患者さんを前に、看護には正解が無いからこそ、自分の看護が患者さんのためになっているのか困難感を抱くことも多くありましたが、経験豊富な先輩方のお力をお借りしながら関わることで、患者さんとの接し方や情報収集の方法を学び、今では悩みながらも自分なりの関わりができるようになりました。院内の勉強会に参加した際には、自身の初期対応とそこで得た情報が病棟での看護に繋がっていることを知り、初期対応の大切さとやりがいを感じています。

先日、職場の先輩と同期と共に富里スイカロードレースに参加してきました。レース中は沿道の方々が「頑張れ！」と声を掛けてくださり、時には手を伸ばしてハイタッチまでしてくださいました。地域の方々の温かさに触れられたとても素敵で貴重な経験でした。また、私生活では旅行が好きで、その土地や人との触れ合いを楽しんでいます。これらの経験を通して、やはり私は人の温かさや人と関わるのが好きなんだと改めて感じましたし、「病気を診ずして、病人を診よ」という建学の精神にもあるように、患者さんを病気を抱えた人としてではなく、病気の有無に関わらずその人がどういう人なのかを考えるということを忘れずにこれからも看護を続けていきたいと思っています。



◇◇◇ 2期生 小島 真由美(旧姓:西野) ◇◇◇

株式会社産業経済新聞社 保健師

私は、新聞社で東日本地域と海外駐在の社員1,000名程を担当している産業保健師です。新聞社という、取材する記者のイメージが強いと思いますが、職種のデパートと言われる程、職種が多岐にわたっており様々な社員が働いています。

看護学科を卒業後、第三病院の内科病棟に4年間勤務し、その中で患者さんの退院後の生活や生活習慣病の予防という観点に興味を持ち、今の会社に転職しました。当初は健康情報を扱う専門の部署がなく、保健師って何をする人？でしたが、周囲に健康管理の必要性を説き、専門の部署を無事開設するところから始まりました。

私自身も力不足でしたので、話をきちんと聞けるようにとカウンセラーの資格を取り、また業務で必要な法律、経理、労務といった分野も研修や専門の学校に通って習得しました。さらに社員が取材している分野(政治経済、スポーツ等)も興味を持つようにしています。



社員達は一癖も二癖もあり、労働安全衛生法は悪法だ！と言って健康診断を受診しなかったり、風邪をひいてはアルコールで(飲酒して)体内を消毒するから大丈夫！と宣言したり、またよく食べよく飲みで体が横に大きな社員が多く、最初はいろいろと驚きました。

社員と話をする時は、一方的にこちらの話を伝えるのではなく、一人一人に合った解決策を一緒に考えることが大事なことで心がけており、徐々に社員の方も健康への意識が変わってきたように思います。健康診断も受診率が当初80%だったのが現在は100%を維持できるようになりました。私の顔を見たら何らかの行動を起こさねばと思ってくれる社員もいるようです。

業界全体が明るい話題の少ない職場ですが、社員が元気で働けるよう引き続き関わってきたいと思っています。

なお、弊社の産業医は慈恵出身の先生方が代々担ってくださっています。また新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施した時には、同級生が手伝いに来てくれました(写真)。卒業後も続く慈恵医大とのご縁に感謝いたします。

募集
します

支部通信に掲載しませんか？

自身の近況や活動を支部通信に掲載したい方がいましたら左記まで連絡をお願い致します。

▶▶ 連絡先:noriko_a@jikei.ac.jp(基礎看護学 青木紀子)



看護学科 公式 SNS
ぜひフォローをお願いいたします



<https://x.com/JikeiunivKango>



YouTube

https://www.youtube.com/channel/UC-YawoDzFFqOf_sFr6400_A

